



上段

8月3日、町内外から250名が参加したブナ林の保護や地域振興構想などが語られたシンポジウム

下段

8月4日に行われた浅草岳只見沢登山口から只見沢渡河までを散策した自然観察会

只見ユネスコエコパーク 登録記念シンポジウム



自然・文化を守り地域振興につなげる

只見ユネスコエコパークの登録を記念して、8月3日に季の郷湯ら里で只見ユネスコエコパーク登録記念シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、町と只見ユネスコエコパーク推進協議会の主催で、国内外から招かれた行政関係者や有識者が、各地域でのブナ林の保護や活用についての取り組みを紹介し、ブナ林を活用した地域振興策などの意見発表も行われました。

シンポジウムは3部構成で、第1部



▲今後の地域づくりについて考えが述べられたパネルディスカッション

では横浜国立大学教授の松田裕之氏の「ユネスコエコパークと地域振興」と題した記念講演が行われました。第2部では「ブナ林の保護・保全と活用について」というテーマで、北海道や台湾の有識者ら5名が各地域での取り組み事例を発表し、第3部では有識者らに目黒町長を加えパネルディスカッションを行いました。このパネルディスカッションで目黒町長は、ブナ林を散策するための環境整備や人材育成構想などを述べ、その他のパネリストからもブナ林の保全・保護や地域振興についての考えが述べられました。

シンポジウム終了後に行われた祝賀会では、ふるさと交流都市である千葉県柏市の秋山浩保市長から祝辞を頂き、関係者や参加した町民らでエコパーク登録を祝いました。また翌日の4日には、浅草岳山ろく、只見沢のブナ林を散策する自然観察会も行われました。

これまでは登録を目指してきたエコパークですが、これからは自然や文化・伝統を次の世代に継承すると共に、地域経済が発展するような取り組みを行っていく事が重要になると考えさせられたシンポジウムでした。



▲エコパークの登録を皆で祝った祝賀会



▲自然観察会では只見の自然の素晴らしさを肌で感じて頂きました



▲祝賀会で披露された只見の伝統芸能「梁取太々神楽」